



日本SPF豚協会だより

Report of JAPAN SPF Swine Association 2010.10 第41号



提◆言

口蹄疫完全清浄国と復興への道のり

日本SPF豚研究会会長 井上 忠恕

2010年4月から始まった宮崎県の口蹄疫は8月27日の宮崎県の終息宣言で一段落したことになります。しかし、国際獣疫事務局（OIE）が認める「完全清浄国」と復興への道のりは今しばらく残されています。

口蹄疫ウイルスの伝播力はすさまじく、陸上では60km、海上では250kmの距離を風により伝播すると指摘されています。日本は隣接国とは海で隔てられており、口蹄疫などの海外からの伝染病が直接到達しにくいとされてきました。しかし、近年は航空機の普及などにより、ほぼ1日以内に世界各地に人や物が移動できるようになったため、口蹄疫をはじめとする新興感染症や人獣共通感染症などが短期間のうちに世界中へ広がりを見せるようになり、これらは越境性動物疾病とされています。

日本の状況とはかけ離れていますが、口蹄疫汚染国から完全清浄国への道のりをたどったのが南米のウルグアイです。ウルグアイの基幹産業である牧畜業は、口蹄疫との戦いと言っても過言ではありません。口蹄疫はヨーロッパからの移住者が連れてきた家畜から伝播しました。1870年にはすでに発生が確認されており、その後常在化しました。生産性の低下のみならず、収益の高い非加熱処理牛肉のテーブルミートとして輸出ができなくなりました。1千万頭の牛と2千万頭余りの羊が口蹄疫にさらされていた同国にとって口蹄疫撲滅は国家政策であり、口蹄疫撲滅局が中心となって取り組み、1950年代からワクチン接種を開始。当初の4ヵ月ごとの接種から油性ワクチンによる1年ごとの接種に変更すると劇的な効果がありました。1990年以降発生が止まり、1995年には関係者の間で激論の末、遂にワクチン接種を中止し、OIEも他の南米諸国に先駆けて完全清浄国と認めました。そして1997年からは日本へも牛肉が輸出され、1998年だけでも300トンの牛肉が輸出されました。

しかし、ウルグアイは地続きの隣接国の口蹄疫の発生により、常に感染の脅威にさらされています。2000年には10年ぶりに国境の街で発生があり、一旦摘発淘汰で食い止めましたが、2001年4月にアルゼンチンからの旅行者が持ちこんだ発生が起き、数日間で日本の面積の半分ほどの全土に広がりました。ウルグアイ政府は即刻全頭ワクチン接種を実施し、3週間余りで1千万頭の牛への接種を終え、流行の終息宣言を行なうことができましたが、再び「ワクチン非接種清浄国」への長い戦いへの道のりが始まりました。その後変遷がありましたが、現在では「ワクチン接種清浄国」となっています。一度口蹄疫を制圧した経験から、再び「完全清浄国」になることが期待されます。しかし、近隣諸国と国境を接している国での清浄化は想像以上に難しく、自国だけの防疫に留まらず近隣諸国へのワクチン供与の援助や、口蹄疫のみならず家畜衛生向上への協力を含めてメルコスール（ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ウルグアイで形成される南米南部共同市場）域内への働きかけを続けています。また、口蹄疫撲滅のために、と殺家畜ごとの基金の積み立てや国民への啓蒙活動なども絶え間なく続けられています。

わが国の場合、今回宮崎県で感染拡大を食い止められたことは関係者一同の努力であり、最大の敬意を評します。しかし、豚への感染から爆発的な蔓延が起きたことが被害を拡大させました。

日本SPF豚協会赤池洋二会長は「渦中にあったSPF豚認定農場が感染を免れていたことは、強固な防疫意識を持ち、認定基準を確実に守り続けたことも大きい」（本誌第40号）と述べ、SPF豚認定農場の高度な防疫管理が有効であることを提起しました。

口蹄疫はじめ越境性動物疾病の発生の可能性があることを念頭に、管理対策を立てるときであることを教訓とすべきでしょう。

日本SPF豚協会・日本SPF豚研究会共催 合同セミナーを開催します

11月2日(火) 東京・KKRホテル

4月の宮崎県における口蹄疫発生を受け、畜産業界は前代未聞の事態となり、さまざまな恒例行事が中止・延期を余儀なくされました。協会事業も書面表決による総会、地域研修会の無期延期など大きな影響を受けましたが、終息宣言も出され落ち着きを取り戻す中、下半期の事業推進に努力するつもりです。

そこで、まずは恒例の秋のSPF豚セミナーを開催いたします。今回は、SPF豚研究者・関係者で組織されている日本SPF豚研究会（以下研究会）との共催という形をとり、合同セミナーとして開催することになりました。

日本SPF豚研究会は今年設立20周年の節目の年を迎え、6月に記念大会を開催する予定でしたが、やはり口蹄疫の影響により、万全を期すため、秋に延期されておりました。時宜にかなった内容を検討する中、短期間に類似のテーマを含めた開催が重なることを避ける意味合いもあって、今回に限り合同開催となりました。

合同セミナーの内容は次ページの通りです。

まずは研究会の総会が行なわれます。セミナーの内容とは別ものではありませんが、通常研究会では同時に開催しております。会員以外の方も出席いただけます。

次に、研究会20周年を記念し、「日本におけるSPF豚生産システムとSPF豚農場認定制度」と題した講演が行なわれます。講師は研究会の初代会長であり現在SPF豚農場認定委員会委員長の柏崎守氏です。

続いて、協会セミナーでも研究会でも恒例となっている「認定農場の生産成績年次報告」を藤田世秀・協会事務局長が行ないます。CM認定農場の生産成績の推移、傾向、特長などを分析しています。

休憩をはさんで「生産成績優秀CM農場表彰式」を行ないます。今年で4回目となります。昨年度は北海道の青木ピッグファームが総合生産成績・商品化頭数両部門で最優秀となり2冠を達成しました。今年も高成績が期待されています。

続いて、「北海道のSPF・CM農場とともにあゆんだ20年」と題し、ホクレンの岩瀬俊雄生産振興部技監に講演いただきます。ホクレンが生産ピラミッドとして本格的に北海道のSPF養豚に取り組み、高成績をあげてきた軌跡、成果をご紹介します。

最後は、鹿児島大学農学部獣医学科の出口栄三郎教授による講演です。出口教授は一貫して豚の生理と免疫機能および疾病対策を研究されている第一人者であると同時に、南九州の養豚場の予防衛生対策の現場指導にも積極的に関わられ、PRRSVやPCV2をはじめとする二次・三次疾病対策の具体策を農場において実証研究されています。現場を知る研究者として生産者の厚い信頼を寄せられている方です。「豚サーコウイルス2型関連疾患とワクチンおよび農場バイオセキュリティによる農場内コントロール」をテーマに、疾病対策の具体例とその成果、防疫の重要性などお話しいただく予定です。

このように、合同セミナーならではの充実した内容となっております。また、セミナー終了後には恒例のSPFポークをご賞味いただく懇親会も開催いたします。毎回大変なご好評をいただいている認定農場産SPFポークのしゃぶしゃぶ、ハム・ソーセージなどの加工品も多数ご用意いたします。この機会にぜひご賞味下さい。

会員はじめ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日本SPF豚協会・日本SPF豚研究会 合同セミナー 開催要項

日 時 平成22年11月2日(火) 13:00~17:30

場 所: KKRホテル東京 (地図参照) 11階「孔雀の間」

プログラム

- 開会のあいさつ
- 来賓祝辞
- 日本SPF豚研究会総会 13:10~13:40
- 「日本におけるSPF豚生産システムとSPF豚農場認定制度」 13:40~14:30
講師: 柏崎 守・日本SPF豚協会SPF豚農場認定委員会委員長
- 「認定農場の生産成績年次報告」 講師: 藤田世秀・日本SPF豚協会事務局長 14:30~15:00
- 休 憩
- 生産成績優良農場表彰式 15:15~15:45
 - ・生産成績上位農場の解説
 - ・選考経過説明
 - ・表彰(表彰状・トロフィー授与)
 - 総合生産成績最優秀農場
 - 商品化頭数最優秀農場
- 「北海道のSPF・CM農場とともに歩んだ20年—ホクレン生産ピラミッド」 15:45~16:30
講師: 岩瀬俊雄・ホクレン農業協同組合生産振興部技監
- 「豚サーコウイルス2型関連疾患とワクチンおよび農場バイオセキュリティによる農場内コントロール」(仮題) 16:30~17:30
講師: 出口栄三郎・鹿児島大学農学部教授

会 費: 無 料

◆懇親会◆ 17:30~19:30 会 費 5,000円

<お申し込み方法>

同封の申し込み書にて下記までFAXでお申し込み下さい。

研究会会員には別途案内があります。どちらでお申し込みいただいても結構です。

(申し込み先は同じです)

●申込期日 10月25日(月)必着



お申し込み・お問い合わせ先

日本SPF豚協会

FAX 03-5835-5376

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2

ニューセンチュリービル7F

TEL 03-5835-5375

KKR HOTEL 東京

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1

TEL.03-3287-2921 FAX.03-3287-2998

交通のご案内

●地下鉄東西線竹橋駅3B出口から専用通路●首都高速環状線神田橋出口から2分●JR東京駅(丸の内口)から車で5分

豚サルモネラ症②

東京農業大学教授 山本 孝史

疫学

豚のサルモネラ症は、わが国では1928年に最初の報告がなされ、以後1945年頃まではかなりの発生が認められていました。しかし1949年から1957年にわたる調査では、1949年にパラチフスの発生例が2件確認されたのみで、以後1957年まで豚コレラ罹患豚を含む1万頭以上の臓器や糞便が調べられましたが全く検出されませんでした。その後1970～71年に2件のSC感染症が報告されたのみでしたが、1990年代に入ってPRRSの流行と歩調を合わせるように各地で多発するようになりました。前回述べましたように、SC、ST感染症とも日和見感染症的色彩の強い疾病であり、感染しても発症するとは限りません。STよりも病原性の強いSCでも発症率は20%前後です。しかし、発症豚の死亡率は約35%にも上ります。感染経路は経気道感染と経口感染の二つあります。経気道感染では、菌は鼻粘膜や扁桃で増殖して鼻炎や扁桃炎を起こします。次いでこれらの部位で増殖した菌は、肺の奥深くへと吸入され細気管支や肺胞に達して肺炎を起こします。これらの部位で菌はマクロファージに取り込まれますが、菌はこのマクロファージを破壊してリンパ節を経て血流に乗り敗血症となり、肝臓にチフス結節が形成されます。経口感染の場合は、腸管で増殖した菌が粘膜上皮や固有層へ侵入し、ついで腸間膜リンパ節から血流を介して肺に至るので、最初に敗血症となり、次いで結腸粘膜の壊死性および潰瘍性病変がみられ、最後に間質性肺炎や肝臓の多発性巣状壊死へと移行します。Turkら(1992)は、2,010例の病性鑑定材料中、SCが分離された153例(7.6%)について、143例(93.5%)に肺炎が認められたのに対して、腸炎は29例(27%)で認められたに過ぎなかったことを報告しています。このようにSCでは、感染ルートに関わらず高率に肺炎が見られるのが特徴です。

SCの宿主域は、STと異なり豚のみです。したがって

伝播は罹患豚の気道分泌物や糞便に含まれる菌が、経口あるいは経気道的に感染することによります。STでは、これらに加えてネズミや野鳥、時には飼料が感染源となります。

以上は、豚に疾病を起こすSCやST感染症に関する記述ですが、豚の病気として問題になることは少ないその他のサルモネラも、前回記載したように豚肉を介してヒトの食中毒の原因となりますので重要です。STやSCは、日和見感染症的色彩の濃い疾病とはいえ、発症することにより注意が喚起され対策が講じられますが、その他のサルモネラは検査をしないかぎりその存在がわかりません。ヨーロッパではデンマークを嚆矢として農場のサルモネラ低減化プログラムが実施されており、抗体検査により各農場のサルモネラ汚染度がモニタリングされています。これはとりもなおさず豚肉を原因とするサルモネラ食中毒をなくすためです。わが国の養豚場および豚のサルモネラ汚染率は、2003～2005年の調査(Kishimaら、2008：前号記載)では、養豚場で22.0% (48/218)、個々の豚で3.1% (169/5,393)でした。また下痢便を対象とした1996～2001年の調査(浅井、2003)では、養豚場で19.1% (45/235)、個々の豚で9.5% (84/887)でした。この陽性率は、ヨーロッパの陽性率よりもかなり低いと考えられます。わが国ではヨーロッパで実施されているような取り組みはまだなされていませんが、SPF豚関係者には、豚の病気とは関係のないサルモネラにも関心をもっていただき、あらゆるサルモネラのいない農場を目指して頂きたいものです。わが国の汚染率の低さは、それが可能であることを強く示唆していると筆者は考えています。

<参考文献>

[1] 浅井鉄夫(2003). 豚のサルモネラ症の低減化への課題. ALL About SWINE, No.22, 23., 2-8.

[2] Turk, J. R., Fales, W. H., Maddox C., et al. (1992): Pneumonia associated with Salmonella choleraesuis infection in swine. JAVMA, 201, 1615-1616.

◆先進的S P F豚農場紹介◆

農事組合法人八幡平ファーム（岩手県洋野町）

常務理事大泉 俊昭



大泉俊昭（おおいずみとしあき）
昭和62年岩手大学農学部獣医学科卒業、
全農入会。平成16年退職、秋田県の八
幡平養豚組合へ。平成18年、母豚1,630
頭の最先端設備を備えた八幡平ファーム
を立ち上げ、長年の夢であった農場経営
を実現させた。平成21年4月には肉豚週
800頭出荷体制となり、その成績は全国
でもトップクラス。日本養豚界のニュー
リーダーとして期待されている。

農場について説明します。

職員20名の平均年齢は30.5歳です。前にもいったよ
うにかなり若い職員だけでやっています。

豚舎に対して求めたのは、1人で100頭飼えるシステ
ムです。このことについては、工事の途中でも相当注
文をつけました。「これをやれば5分間作業が縮まる
という設備であれば付けてくれ」といったように、現場
の職員たちがいかに効率よく作業できるかという工夫
を、とことんお願いしました。

結果的には今1,630頭を17人で管理しています。1人
あたり95頭となります。これはなかなか、できそうで
できないと思います。

出勤は朝7時半で8時15分作業開始、昼は12時から
1時半まで休憩、1時間の昼寝は強制です。作業終了
は4時半から5時の間で、残業は基本的に認めていま
せん。よほどのことがない限り遅くまで残っている職
員はいません。このメンバーで、この若さで、この勤
務体制で、今のところこの高い成績を出せているとい
うことです。

豚舎の環境制御装置は特にすぐれています。

環境システム、温度を一定に保つシステムがきちん
とコントロールできれば、豚は病気にならないはず
です。寒暖の差や乾燥によって風邪をひいたり下痢する
だけです。

365日24時間、温度・湿度がほとんど変わらないと
ころで豚を育てれば、下痢も肺炎もなく、当然薬もそう
使わずにすみます。そういう豚舎を造ってもらったと
いうことがあります。

もう一つの要因はリキッドフィーディングの導入で
す。後ほど説明しますが、餌の量は通常の不断給餌よ
り11%ダウンしました。コストも下がり枝肉も揃った
ということで、これがなかったら今の成績は無理だっ
たと思っています。

また、臭いについてはないとはいいいませんが、ほと

んど感じません。いまま
で農場を訪れた人に、臭
いといわれたことはまず
ありません。これは、糞
尿処理施設だけではなく、
豚舎の段階から脱臭
設備を設け臭気対策をし
ているからだと思いま
す。また、生菌剤等は
一切使っていません。心理的にも負担がないので安心し
て作業ができると思います。

繁殖成績は平成20年10月から21年9月までの1年
間の平均離乳頭数が25.8頭、肉豚出荷頭数が25.0頭
です。分娩回転率は2.52、2サイクル以上の発情の見落
とはほとんどありません。

分娩率は93.6%ですが、某種豚会社の管理ソフトを
使って週管理しています。やはり計数で管理しなければ
これだけの規模でこの数字は出ないと思います。計
数ソフトの活用は不可欠です。

農場では自家取りAIを最大戦力と考え行なってい
ますが、雄の豚房に擬牝台を持ち込んで採取していま
す。狭くて危険ではと思われるかもしれませんが、自
分の豚房ということなのか、かえって興奮もせずおと
なしく暴れる様子もない、というのが現場の声です。

肉豚出荷に際しては、先ほど述べたように枝重70～
78kg適合率を上げることを一番の目標にしています。
上記1年間の平均が91.5%です。

体重測定は豚衡機を豚舎に持ち込んで測定していま
す。肉豚は動かせば動かすほど、重量が目減りするか
らです。豚衡機の耐久性は落ちますがそれはやむを得
ないと思っています。原始的かもしれませんが、適合
率を上げるためにはこの方法がよいと考えて行なっ
ています。
(以下次号)

(株)総食は千葉県市原市にある食肉・加工品卸販売会社です。昭和53年10月、根元利昭社長が設立されました。12軒の直営小売店、ハム工場やとんかつ屋の経営など幅広い事業を展開された時期もありましたが、現在は松阪牛、神戸牛などのブランド肉や加工品を中心に、高級ホテルや百貨店などへのデリバリー専門に特化。北は福島県から南は高知県まで、幅広い取引先を持ちます。社員は11名、加工品は自社工場ですべて手作りし全国へ発送しています。

豚肉は精肉中心ですが、国産はSPF豚のみ。伊藤忠飼料ピラミッドのSPF豚専門カット工場から東北地域の認定農場産豚肉をパーツ仕入しています。

根元社長のSPF豚との出会いは古く、30年近く前、特徴ある豚肉を販売したいと思っていたところに松戸食肉市場で担当者に紹介されたのがきっかけだったそうです。その頃から「脂のおいしさが違う、日本一の豚肉だと思っています」。

また、息子である昭博専務は小学生の頃から家業を手伝うなど肉に親しんで来られたそうですが、「子どもの頃からSPFポークを食べてましたから、よそで豚肉を食べるとその違いにびっくりした」そうです。「だからこそ自信を持ってお客さんに勧められ



根元利昭社長(左)と昭博専務(上)
加工工場ではホテル向け高級ハンバーグを手作り中(右)



るんです。一度食べてみたらわかりますから、と」。

そんなお二人に、SPF豚に望むものはと尋ねると、口を揃えて「誰でも一度聞いたらわかる日本名がほしいですね」(利昭社長)。「新規開拓の際など、一から説明しないとイケない。SPF豚では国産のイメージがなかなか伝わらない。安全でおいしいSPF豚全体を一言で表す名前、キャッチコピーがあればとてもいいですね」(昭博専務)と、長年の課題でもあるSPFポークの呼称・愛称を決める必要性を改めて感じました。

●協会からのお知らせ●

●ちくさんフードフェアへの出展を見送り

協会では昨年に続き神奈川県川崎市で行なわれる「ちくさんフードフェア」(財)日本食肉流通センター主催)に出展する予定でしたが、全国から食肉関係者が集う場所でもあり、当日協力いただく会員の方やピラミッド関係者の通常業務への影響を考え、今年に限り参加を見送ることとしました。

会員の皆様にはすでに文書をお送りしてありますが、ご理解のほど、お願い申し上げます。

●代議員・理事の交代

中部・北信越地区代議員の中平正英氏(長野県農協直販(株)SPF種豚センター)が若林賢悟氏に交代しま

した。また、シムコピラミッドの代議員および理事が渋谷清昭氏から鈴木保氏に交代いたしました。

●ポークリーフレットVol.3を差し上げます

ホームページでもご案内しておりますが、SPFポーク促進用リーフレット第3弾をご希望の方にお送りしております。お申し込みが殺到し品切れとなりご迷惑をおかけしましたが、増刷が完了しましたのでぜひご活用下さい。

●柏崎認定委員長が瑞宝中綬章を受賞

SPF豚農場認定委員会の柏崎守委員長が春の叙勲において瑞宝中綬章を受賞されました。誠におめでとうございます。

豚肉のしょうが焼き ●レシピ提供・いのご家シェフ 小貴健介

リニューアルレシピの第2弾は定番中の定番、しょうが焼きです。おいしくつくるコツを教えていただきました。しょうがは長く暑かった夏の疲れをとるのに効果的。やや甘めのタレをたっぷりからめた、ごはんによく合う一品です。

●材料● (3人前)

SPFローススライス肉 300g
サラダ油 大さじ1
白ごま 少々 (お好みで)

<タレ>

おろししょうが 35g
しょうゆ 180cc
砂糖 80g
酒 180cc

つけ合わせ

キャベツの千切り、トマトのくし切り
適宜お好みで



●つくり方●

- ① タレの材料を鍋に入れひと煮立ちさせます。
- ② スライス肉は長めのものは二つに切ります。
- ③ フライパンに油を入れ温め、肉の両面をさっと焼きます。
- ④ 肉に火が通ったら①を入れ、肉にタレをからめてできあがりです。お好みで白ごまをふりかけます。

【シェフからひとことアドバイス】

肉はさっと軽く焼く、焼き過ぎると硬くなってしまいます。SPFポークの柔らかさを生かした簡単な作り方ですので、ぜひお試しください。

●認定情報●

●平成22年度認定農場

[9月認定](有効期間:平成22年9月9日から23年9月末日まで)
北海道・ササキSPFファーム、(有)山中畜産長沼農場、(有)浅野農場、(有)フロイデ農場、(有)道南アグロ栗山農場、
岩手県・全農畜産サービス(株)東日本原種豚場、(有)ケイアイファウム北上農場、(農)八幡平ファーム、秋田県・全農畜産サービス(株)秋田SPF豚センター、(株)フカサワ深澤スワインファーム館合農場、(有)ファームランド、宮城県・(株)シムコ岩出山事業所、福島県・(株)シムコ浪江事業所、茨城県・常陽発酵農法牧場(株)、東京養豚農業協同組合岩井牧場、オヌマファーム、山本ファーム鹿嶋、(有)米川養豚場、栃木県・サンエス大渡農場、(有)K&Tコーポレーション、群馬県・(有)ほそや、(有)畑中畜産、利根沼田ドリームファーム(株)、長野県・長野県農協直販(株)SPF種豚センター、(有)岩垂原エスピーエフ農場、(有)タローファーム、(有)クリーンポーク豊丘農場、(農)エスピーエフ

こがねや第一農場、千葉県・(有)東海ファーム倉橋本農場、同猿田農場、同第2肥育農場、同第1肥育農場、(有)菅井物産飯岡SPF農場、(有)下山農場第1農場、同飯岡農場、埼玉県・(有)松村牧場、鳥取県・(株)西日本ジェイエイ畜産矢下繁殖農場、同上馬場肥育農場、同上馬場一貫農場、愛媛県・JA全農愛媛県本部広見種豚増殖センター、香川県・(株)七星食品多和ファーム、大分県・(有)九重ファーム、熊本県・(有)高森農場、宮崎県・(株)ファームテックえびの種豚場、(株)守山畜産、鹿児島県・(株)シムコ鶴田事業所、ファームテック大口農場、(有)新留養豚、鹿児島いずみ畜産(株)江内農場、そお元気(株)ファーム野方農場、高山大規模実験農場生産農場、同肥育農場、鹿児島いずみ畜産(株)三笠農場

(以上53農場)

※次回認定委員会は平成22年12月9日(木)の予定



JA東日本くみあい飼料(株)
利根スワインセンター

中野 道広さん

●群馬県沼田市

地元の期待を担う モデル事業に取り組む

利根スワインセンターは群馬県北東に位置し、長野県小諸市から栃木県日光市に至る観光道路「日本ロマンチック街道」を尾瀬・日光方面へ向かったところにあります。近隣には昭和11年に天然記念物に指定されたという「吹割の滝^{ふきわれ}」をはじめ老神温泉などがあり、自然豊かで風光明媚なところです。

平成21年10月に竣工した当農場は、JA東日本くみあい飼料(株)直営の母豚1,500頭の繁殖農場です。肥育農場としては、リキッドフィーディングとオートソーティングシステムを備えた、JA利根沼田が経営母体の利根沼田ドリームファーム(株)が隣接しています。

両農場は地域農業の振興はもちろん、JAグループが機能分担する果樹・野菜・園芸・米麦モデル事業との耕畜連携、および地域循環型・環境保全型農業のモデル事業として位置付けられています。また、観光地でもあることから、消臭対策(薬品を使わないバイオエアークリーニングシステム)にも万全を期しています。

場長である中野道広さんは以前は群馬県経済連(現:JA全農群馬県本部)の職員で、直営種豚場勤務、食肉販売、配合飼料営業などの業務を経験され、直営レストランの店長をされたことも。その中でも養豚生

産者の技術指導にまい進された実績を買われ、場長に抜擢されました。ご実家は養豚農家、豚にはゆかりがあります。

現在、中野場長以下、地元出身の若いメンバーを中心に14名で農場を切り盛りされています。

開設当時を振り返って中野さんは「1,500頭という大規模の種豚群を育成段階から管理して交配・分娩させるというのは初めての経験でした。導入のさなかにまさかの大雪に見舞われるなど大変なこともあり、従業員一同、日夜奮闘の毎日でした」。

そんな中、地元出身の紅一点、動物が好きで絵が好きだという弱冠20歳の吉野葉月さんのがんばりには、一同引っ張られたそうです。

まだまだ試行錯誤の毎日ですが、「今後は、従業員の健康管理はもちろんのこと、系統事業の先進モデルとなるよう地域との融合を図り、明るく元気な職場作りががんばっていききたい」とおっしゃっておられました。(全農畜産サービス(株) 瀬戸島 修)



利根スワインセンターの皆さん(前列中央が吉野さん)

編集後記

猛暑の夏もようやく終わり、暑熱による熱死亡、食欲不振も回復しつつあるところでしょうか。宮崎の口蹄疫も、一抹の不安は残るものの、鎮静化の方向でしょう。業界の会合、講演会等も再開するところが増えてきました。協会と研究会の合同セミナーも11月2日に開催されます。ぜひご出席下さい。しかし、緊張からの解放で「もう安心」と安易に思ってはいませんか。今回の貴重な経験を農場の危機管理の見直しにつなげ、今後の農場バイオセキュリティに生かしていきたいものです。確実なステップアップは日々の積み重ねです。(世)



日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第41号 2010年10月1日発行(季刊)
発行 一般社団法人 日本SPF豚協会
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail: j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 赤池 洋二
編集人 藤田 世秀